

大聖  
歡喜天

靈驗經和訓圖會

上

ハ4  
2763  
1





人聖  
歡喜天

靈驗經和訓圖會

上

ハ4  
2763  
1

靈驗經和訓圖會



門八〇  
號 2763  
卷 1

波  
號 1808  
卷 1-3

鑄新歲卯乙二政安

洛東春屋織月齋著

大聖  
歡喜天  
靈驗經和訓圖會

全部三卷

浪速松川半山安信畫

岡田群鳳堂發兌

佛法僧寫

日本最初大聖歡喜天勸請略記

夫大聖歡喜崇神天皇と崇光紀まゝの傳ふ

男天の自在天あり女天の十一面觀世音菩薩ふ

ゆりて日月噴明陰陽和順天下泰平國家

安寧五穀豐饒百姓快樂有て君長夫婦朋友

和令して諸人變改諸惡縁違黃白融通自在

て行ふは後々身まも青雲と得て願ふは應



回 四  
回 五  
回 六



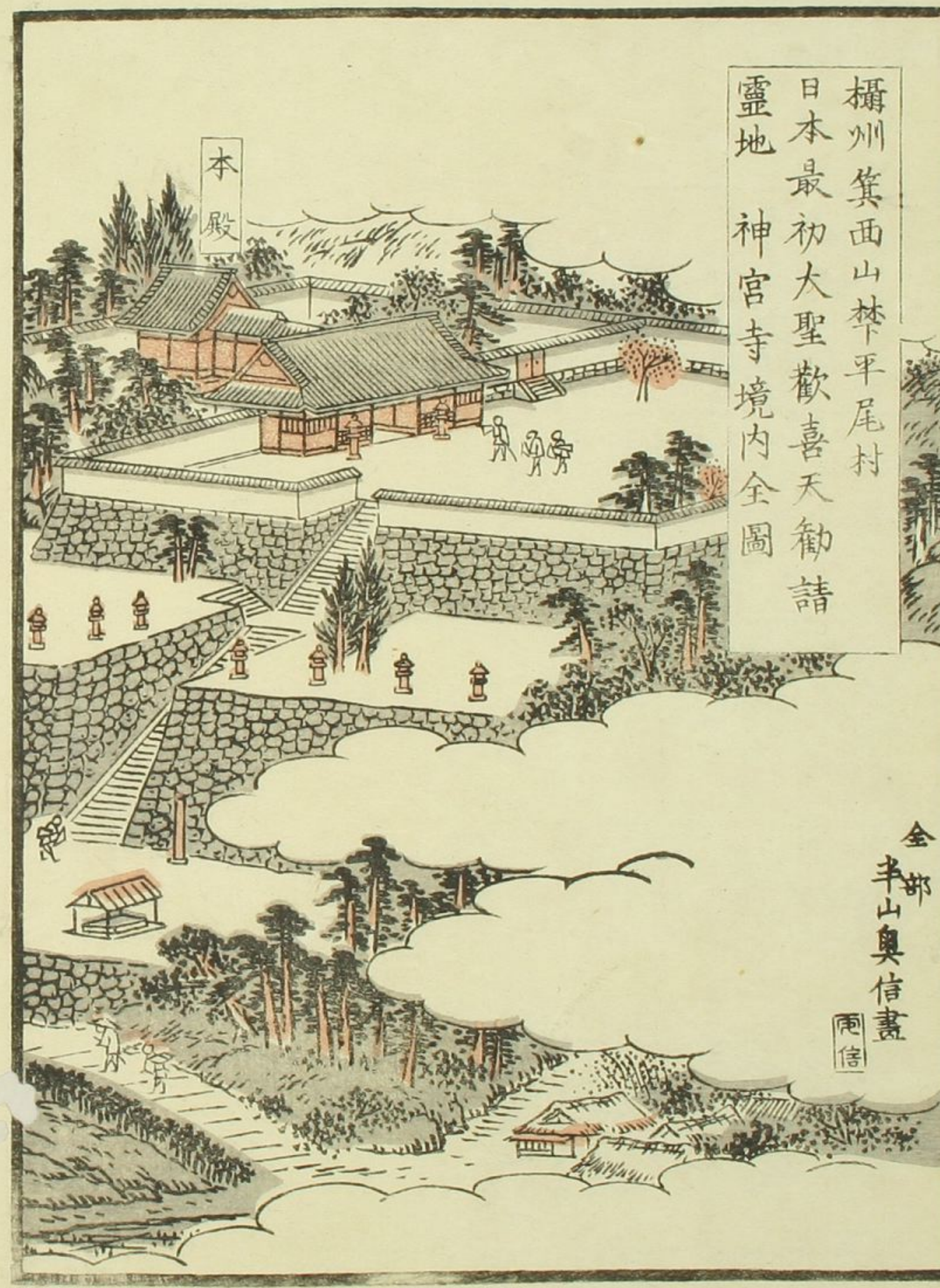
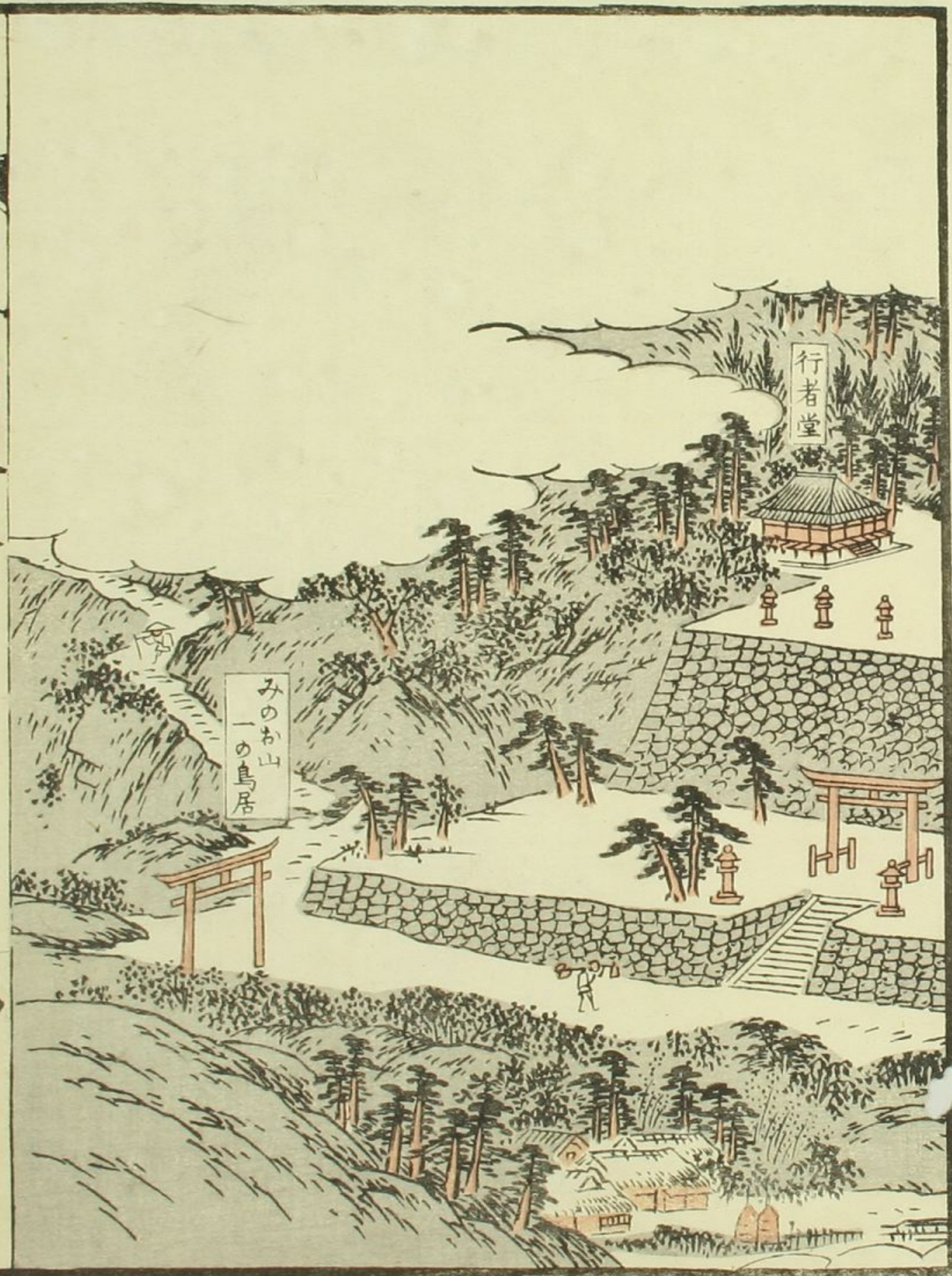
ひんきう せん ちゆうり  
 今も空躬も轉じて福祐とわづらへんまの靈驗擁護  
 すまら ちゆう そのまゝん せん  
 迅速なるとして其靈驗の的百々を成れ救ひ衆  
 ひとめが せん  
 人衆あまひをくちりて事なき事なき知知  
 して大日本勸濟の根を其高山の禁平尾村田石戸  
 てし ちゆうり  
 手村の神宮寺と取方一根本の靈なること抑あり  
 せん せん  
 神宮寺小勸濟の日本に出現の靈陽あり人皇四  
 十六代聖武天皇の勅令あり後には靈陽あり  
 十代聖武天皇の勅令あり後には靈陽あり

ちゆうり せん  
 乃為是も果してまゝにせん 処悪老妖魔もあがりし  
 げ せん せん  
 解をぬくもせん せん せん  
 結核の毒もせん せん せん  
 守りて行者向て左相の行人を助るく懸ふ守  
 ると身ぬくが病もせん せん せん  
 能き自在なるとも高山の神宮寺とせん せん  
 永劫末代もせん せん せん









攝州箕西山禁平尾村  
日本最初大聖歡喜天勸請  
靈地 神宮寺境内全圖

全  
部  
半山與信畫  
兩信



上卷緒目

- 一 和合尊容根元之事
  - 一 天尊形像造作之事
  - 一 浴油拜禮之事
  - 一 天尊と崇信ふ心得遠之事
  - 一 和合一心之事
  - 一 困碁の戯言真と成る商徳之事
  - 一 聞遠却る商徳根元之事
- 中 卷
- 一 中興觀相者水野南北居士小傳

- 一 北國小富嶽の夢見て兄弟高運之事
  - 一 窟中小陥入る小亀の為小天壽全之事
  - 一 盜賊と追駈る盜品と取復す事
  - 一 盜賊のふ小身上没落之事
  - 一 旅人と宿して盜難と遁る事
  - 一 天尊と欺る忽ち業罰之事
  - 一 狼の為小天災と免る事
  - 一 行者信心より依る壽命長久福祿之事
- 下 卷
- 一 附録十百大士隨願即得陀羅尼經和訓



日親上人にっしん大難之事おほいごと一天竺法忍上人てんぢくほにん之事こと

為孝心たかこころ葛井寺かゐいじへへ願ねが泰たい幼女之事こむすめこと

佐渡屋さどや某ある獲生とくせい長命之事ながいのちこと

長谷寺ながたにじ老僧らうそう獲生之事とくせいこと

津浪つなみと母子おとこ助命すけいのち并肥前國ひえん醫生いしや地震ちきん難事がたごと

毒河豚どくわだかまと病氣びやうき本腹ほんはら之事こと

十惡じゅうあく五迷ごみ之事こと一信心いちしん小依こよりて令良者しやうりやう福人ふくにん事こと

闇夜やみよ觀音くわんおん示現しげん之事こと一ひと變女へんにょ成男なりをとこ之事こと

終尾

夫聖まへん靈驗れいげん經和訓圖會卷上



洛東 春屋はるや織月おりつき齋いひ棋翁きおん謹述

南天竺國三截菩提留支奉 詔譯

元身げんしん釋書しやくしよ第だい十五じふごの方ほう應おうハニ云いひ釈しやくの菩提ぼだい提だいハ南天竺國なんてんぢくこく

波なみ羅ら門もん種しゆなりなりとと支那しなの五ご臺たい山さんの文殊もんじゆ師し利りの靈應れいおう

と聞きく本國ほんこくと發足はつそくして小舟こぶね小駕こがして唐たう寺じ小入せうにりる即すなはち

五ご臺たい小せう登のぼる山さん中ちゆう小せう於お一人ひとりの老翁らうおん小せう逢あて向むかて曰いひ法ほふ

師し何なに方はうへへ之の提だい曰いひ山頂さんてい小せう文殊もんじゆと拜をまつ曰いひ文殊もんじゆ在あり

る形かたち現あらふ日本國にっぽんこく小せう託たく生せいはと語かたり己おのはとと相あ互ひ提だい



乃り本朝ふ赴く天平八年七月行基法師奏して曰  
當ふ聖僧と迎ふ聖武皇帝禮部鴻臚館雅樂の  
三億の詔を以て難波津小向へ行基二百の沙門といひ  
ひく官僚といふ海濱に於て音楽と細儀仗と莊  
ろて之と待つ須臾西海の波面小舩泛くして漸く  
近し二の梵僧より行基迎へ多し提のちとて  
この小語を半日徹の如く始め梵言なりと行基  
よく應ふ後和語といひ善提もまこと能く和らむ其の  
數番なりと勅して大安寺の東坊小館に十月ふ時の衣  
服と賜ふ天平勝寶元年小東大寺の洞像あり  
今の南都

大佛が善提が詔を用眼の導師と為り三年四月僧正と  
なる時は婆羅門僧正と號す天平寶字四年二月廿五日  
化すと云々

爾時毗那夜迦於鷄羅山集諸大衆梵天自在  
天釋提桓因等及無量億數鬼神等從座而起  
稽首作禮於大自在天請言我今欲說一字咒饒  
益衆生唯願印可聽我所說諸天言善哉如汝所  
說毗那夜迦得說歡喜踊躍即說毗那夜迦一字咒曰



時小毗那夜迦とつゝの歡喜天の御本地十一面觀世音  
の一等佛座と下りまひつゝの処の別祢うして中天竺  
國の雞羅山ふ於る諸の大衆梵天自在天釈の提植  
等かよひ無量億救の鬼神などを集めらるゝおの  
く座小隨うゝ起て稽首して大自在天小禮と作  
して請ふて言さる我今一字の咒と説く衆生を饒ひ  
益んと歎ふ唯願りゝん印して我説く処の諸の天言  
と聴べし善哉汝が説く処のまき毗那夜迦の説と傳  
うゝ歡喜踊躍即りら毗那夜迦一字の咒成といひて  
曰く

唵唐伽頡里唵訶訶洋吒

此咒の秘密のふ説べしといふ

欲作此法先須造像或用白鐵及金銀銅樺  
木等各刻作其形像夫婦二身和合相抱立  
作象頭人身其造像直不得還價造其像已

此法を作んと欲す先須く像と造るべし或いは白  
鐵かよひ金銀銅樺木などを用ひおのゝ其形像成  
刻く作るふ夫婦二身和合して相抱えりゝる立體





象の頭一人體と造る其像  
と造るふ直く價と還して  
其像と得て己る。抑天尊  
と仰ご奉る陰陽和合  
男女合作して相花と合  
尊客と現しう人吾  
大日本ふての伊弉諾尊伊弉  
册尊大日本陰陽の交會  
夫婦和合根元の靈尊ふこ  
しゆすあり因く諸のこら



諸の教の幸源ふしてつ川  
きも陰陽和合と以て基  
本と成周易ふ天地のつと  
陰陽あり陰陽ありて男  
女あり男女ありて夫婦  
あり夫婦ありて父子あり  
父子ありて兄弟ありて君臣  
あり朋友ありて後ありて  
五倫五常の道備りて又曰  
く天の時も地の利ふ志く



地の利も人の和ふ如べと云々す云禮の用の和と  
以て貴と為す和と以て道の大本と為すこと斯  
の如く陰陽寒暖晴雨和合せざる則ち百物万穀  
實熟榮へば口へ歡喜の二字の則ち和合と本意と  
すとの文字なり君臣父子夫婦兄弟朋友の和も  
和合せざる則ち一家一城も治りがごとく國と治め天下  
と平ふすとの道も何れ見んや所謂仁過は弱く義過  
は硬く禮すぎまば諂と成る智過まは虚となる信  
過まは偽となる因る中庸の道もかくくよるに倚る  
らば中和と以て本と好ず能く辨へんさざんば

るかば五倫五常との中道と和合と以て人の全道天  
地の大本と為して斯の如く抑大聖歡喜天と尊  
信し奉るは本經も説く所あり夫婦合躰和合  
と相抱て立競ひ象の頭も人身も作り就中男天  
の自在尊天なり女天の大慈大悲十二面觀世音  
と云々是則密嚴國土の摩訶毘盧舍那佛金剛不  
壞の無量壽如來の一躰分身應化の示現衆生濟度  
の大慈大悲方便の如く神カと以て化現し處處の  
尊容なり然るに即ち此尊像の陰陽和合の徳ありと  
金胎兩部の應現と表し衆生の如く鷄羅山に化







白月一日とりの正月元日の夜なるべし浄き室内ふ於  
 く清き牛糞を用ひ磨き圓く檀を作り其大小お  
 のく意のまゝなるべし當ふ志外の胡麻の油を取  
 て一説は丁子の油上咒を用ひて其後油を咒すること  
 又神の油は神其後油を咒すること  
 一百八遍ふくと其油とらゝめ浄き銅釜とりて盛  
 差し然ふと後將ふ浄き銅鉢におく銅杓あど  
 と用ひて油を牽ひて其二像の身頂ふ灌ぐと二百八  
 遍一日の中ふ七遍おと灌ぐ平且四遍日午三遍と  
 りふ七遍と為し是の如く法と作して乃至七日心の願  
 ふ処ふ隨つて成る即ち意ふ祈ふ處を得る正ふ油と

灌ぐ時數く願と發す酥密を用ひ和麩めく團を作さ  
 羅苜根并ふ蓋祿に漿是の如く日ふ熱食と成して必  
 らば頃々々々自り食たべ一方氣カと得る  
 ○夫大聖歡喜天と尊祿し奉るの陰陽和合の尊射し  
 ましすは故尔男女合射の尊客と現りて法華經  
 減皆懷意慕向生渴仰心と説りよ此經文の意ハ  
 減く皆意ひ慕く懐く向く生く渴く仰く心と念  
 信し渴仰すの心と生ずるとして意慕愛情の  
 心わらうと天然の和合の本心生ずるなり意慕愛情と  
 つら則和合心なり兼好法師がつら色好まふん



天尊の  
供物  
作る  
旨



甲の玉り蓋の底あはれが如く  
とらふも和合仁愛の本情哉  
つらあり五條三位俊成卿の  
歌の意は人の心のなかり  
まのりのまきまのちまきと  
どしととあはれも強ち  
女色ふらけり父母と忘  
家業と捨く美艶の溺  
るゝととふらぬれがう意と  
いふ節もよく如く和合仁

愛の本情といふ如く和  
つへの諸道諸教の大本  
く和合の道と背くの教  
つらば寒暖晴雨和合  
時の五穀州本熟く栄  
ゆふ歡喜の二字の則和合  
の字と本體といふ尊信  
奉る如の慈尊なり仁義の  
道よりとも和合はる則  
却く害と招くなり最





説とくぐく假令とんちん仁心にんしんなりとも過とる則すなはち弱よわく成なる姑息こそくの  
愛あいとつゝ意い有ある人の嫌きらふ処ところなり義ぎ氣き道だうをば硬かたく  
所謂しゆゐ偏屈へんくつふ成なるなりまと禮節らいせつなりとも過とるまばえつて  
諂てんと成なりて追お後ご輕薄けいはくふ落おつたり智惠ちゑ過とるまばお却かへて  
人ひとと偽いつはりきつつく罪つみふおつつるまばお至いたるまばお信しん實じつ過とるまばお却かへて人  
と欺あやむくま至いたるまばお人倫にんりんの大本たいほん五常ごじやうの道だうすまばお斯かくの  
如ごとくまわらくまばお倚よりまばお中ちゆう和わの道だうと守まもらまばお人ひとなるの  
全まるくま道だうと行ゆくまばお難がたし予よ春はるの屋や熟じやく業ごうなるまばお當時  
の人のひとありまばお天てん尊そん行者ぎやうとまばお歡喜くわんぎ天てん尊そんと祈いのる人ひとと  
見みるまばお大略たいりやくの當時たうじの祈き願げん而已のみとまばお生涯しゆゐと遂とく

信しんと遂とらまばお至いたるまばお稀まれふまばお凡ひんと其その信しん者がとまばお見みるまばお  
過と半はん百ひやく日にちが又またの五ご十じゆ日にち或あるの三さん七しち日にちと限かぎるまばお譬たとへてまばお人  
小こ預よけ置おく物ものと取と戻もすまばお意い得えくまばお祈き誓せい立た願げんす  
る人ひと多おほく其その信しん者がと觀みるまばお多おほくまばお不實ふじつ師し相さう場ばう師し博はく奕えき  
師し或あるの女によ肆し捷せつ樓ろう將しやう俳はい優う藝ぎ者が芝し居い家か業ごうなるまばお然しかも  
吾われの聖せい天てん行ぎやう者がなりと人ひと小こ見み知しらまばお手てをまばお免めんふまばおか  
其その行ぎやう装さうと顯けんりまばお華け美びふまばお信しん者が多おほく是こゝ等らハ真まことの  
信しん者がとまばおのまばお平へい竟けいの潛せん二に行ぎやう者がとまばおのまばお奚なん  
ど利益りやくと家かとまばお哉や是こゝ等らの人ひとの立た願げんするまばお知しるまばお多おほく  
道だう外がいは法はふ背せいけ不ふ義ぎ非ひ道だうなりと臨りん時じ小こ過とるまばお今いまのまばお



のつひまゝの諸色價の高下も勝負まゝの博奕賭  
 の諸勝負も存外の勝利と得る利運欲徳の多分  
 かりんことを願ひて外諸寺院の用處まゝの堂社修覆  
 の世話或は觀物芝居の銀至或は己色ぐ氣根又は智慧  
 にも應じざるの大望お組し免角お濡手あて粟粒の捆  
 る取のそお心と委ねんしが為し心氣と勞らく脾胃と  
 虚しく苗飲瘻疾などあて拘つて呼吸苦しく此と惱  
 まし苦痛おつて人おくば是を命數と縮免短  
 命若死とあはれ唯身の膺と紋らば掌脚と勞れば  
 て安居あはれ大金と相取お儲久ん支と而已常と為

る人の願ふ処ふして何の其應驗利益のゆるべき哉通  
 信心無適ふして寒中水と浴び或は断食断火などお  
 て身と碎き一心と堅固お立願の誠真おわごらん天尊  
 の大慈大悲心より見ゆる忍びは一旦の利徳願望の如く  
 應驗を得るやせうふとゆるして共長久を保つは一旦の  
 依怙お因り立願利益を得るは口々も所謂暑さ  
 忘るはが薩忘るとりやのふく其神恩と辨へ信す  
 るといふ夏やうく忽ち麻畧お信心お忘るがゆへお却る  
 神罰と蒙り困窮以前お倍して貧窮お逼る人あ  
 るは其神恩と忘る信心も等閑麻畧おする処の現罰



かり天尊の慈悲深きを以て罰し懲りめらるるも  
も厳しく人其理を弁へ知らばたのまじり信心の輕薄辱  
畧かりしことを省りて改むるを以て天尊と畏れ小侮り怒り  
奉るの癡愚多く怖を慎しむるに至るなり予が相知  
れる京都六角堂のうらふ某院とて任侶ある天尊と  
祈り奉るふすも知らぬ入りの小精進祭齊も  
只其身を清淨しして慎しむるもれり信者よ  
且浴油供あをて受て黄白と貪り取と意と口と神罰  
の的向あしと狂と死しとわらぬとよと罵り歩  
途中ふ於てつまご見惑ふもあはば壯健の身の仆れ狂



い死ふ及び〜と實ふ怖む〜と怒る〜と夫神祇と  
祀る変り神のあ〜と在れが如く信と疑と致と尽  
純一と適と祈りあはば何まの神何まの佛菩薩と  
納受應報のあ〜と変り〜んや心不誠の道ふうけい  
なげ祈らば〜もの神神詠ふ疑ひ〜況んや天  
尊の君臣父子夫婦兄弟朋友と〜小能和交の道ふ  
應〜なげ祈り〜小隨ひ願ふ〜驗され変り〜ん我應報  
速〜の〜変り〜も〜前〜も迷〜るが如く天尊  
ハ和合の本射と〜と尊容〜と〜と〜と殊更和  
合の道と〜と全一と適ふ崇信あ〜と〜と天下



萬物大小の一切和合の道と雖も、満ちたるまゝに、往昔建武の戦ひも、楠判官橘正成其勢僅く五百人と以て、寄手鎌倉の運兵百万騎の一致和合の口ばかひ、心くかり、捕勢の五百人の軍平城内、小立、龜つとく、味方、和合して一心堅固なる故



味方勝利を得る処也  
 家内中々、つとひのう  
 神が、つとひのう  
 つとひのう  
 外、つとひのう  
 つとひのう  
 つとひのう  
 斯のど、百万騎の軍兵  
 立あり、要害堅固ぬ  
 鐵城といへ、大将愚



正成、聖賢の道  
 と説き、つとひのう  
 人の和と得る



して君臣上下和合わがわがとてふことばの忽たちまちり城内じやうちやうより滅亡めつじやうと  
 まのね例れいある事ことありけり町家ちやうかよりとも主人しゆじんと手  
 代てと和合わがわがとてふ則すなはちの忽たちまち家内けいだい不和合わがわがとて家名相續けいだい  
 かりぐり諸色賣賞しよしきばいしやう商賣しやうばいよりとも賞人得意しやうじんとくいと商  
 主しゆと和合わがわがとて則すなはちの商利しやうりと得とくぐり職人しやくじんも同屋誂主どういせつしゆ  
 仕込主しこにしゆと和合わがわがとて時ときの代呂物賣物調しろものばいものしらべひがぐり黄  
 白不融通くわくふとつじゆうかゝる渡世成とせなるがぐり其外習字そのわらうじ字問始じめ  
 琴こと三弦さんげん諸藝道師しよげいどうし匠しやうと門人もんじんとの和合わがわがは則すなはちのなま  
 処ところの藝道げいどうも熟達じゆくたつふ及び及び勿論もちろん神道しんどう釈教しやくきやうともふ寺壇じだん  
 香華院かうげえんと檀那だんな并なら講中かうちゆう世話人せわしやうじんかゝる和合わがわがとて時とき

と相續成進さうじゆくせいじんく況いはんや農業農作のうぎやうのうさくの人ひとの天地てんちの寒暖晴えんえんせい  
 風かぜ不ふ隨ずいひ其時候そのじきじやうとよとよ勘察かんさつ種蒔耕しゆまきかう佐たすかた  
 一穀一粒いちこくいちりつも熟じゆくし得とくると難がたく此利このりとよとよく亦またく  
 考かんがふる時ときの一往いちやう一止いちし造次ぞうじ顛沛てんぱいあり和合わがわがの道みちと離はなる  
 変かはりぬる天てんの時ときも地ちの利りも唯人ただひとの和わふ如ごとく古こ  
 人も示しめし諭ごんし置おきする其和合そのわがわがの根元こんげんとて人の人ひと  
 たる五倫五常ごりんごじやうの道みちと能よく守まもる中道ちゆうだうと行なふあり其  
 五倫五常ごりんごじやうの道みちと守まもり行なふありの本もとの偏へんへ心直こころなす  
 唯信心ただしんじん純じゆん一いつとて誠まことの至いたりて發はつる処ところかゝる故ゆゑも天尊てんそん  
 もあつとて陰陽和合いんやうわがわがの尊容そんやうとてのしく示しめるし



爾時毗那羅曩伽將領九千八百諸大鬼王遊行  
 三千世界我等所為神力自在遍歷諸方奉衛三  
 宝已大慈悲利益衆生向於世尊俱發語言我以  
 自在神通故號毗那羅曩伽亦名毗那夜迦亦名  
 毗微那曩伽亦曰摩訶毗那夜伽如是四天下稱  
 皆不同我於出世復有別名即以神變身虛空而  
 說偈言

時小毘那羅曩伽將小九千八百のり終くの大鬼王と  
 領んとす諸方より遍歷して三寶佛法僧の衛と奉  
 る己小大慈悲と以て衆生を利益しる世尊釈迦如  
 に向へて俱ふ聲言と発し我自在の神通を以ての  
 りて毗那曩伽と号しするなり又毘那夜迦とも名け  
 まる毗微那曩伽とも名けしる薩阿毗那夜伽とも  
 名けしる如く四天下欲界色界遍歴諸方奉衛三  
 宝已大慈悲利益衆生向於世尊俱發語言我以  
 自在神通故號毗那羅曩伽亦名毗那夜迦亦名  
 毗微那曩伽亦曰摩訶毗那夜伽如是四天下稱  
 皆不同我於出世復有別名即以神變身虛空而  
 說偈言



我有微妙法

我われの微妙みせうなる目めも見みえぬ幽おぼなる怨うらみ不思議ふしぎの妙法みせうあり

世間甚希有

世間よそよそ何なにれも希まれ有あり至いたる希まれふらること希まれ有あり  
貪欲おんよく我慢われまんの人ひとの眼めも見みえぬこと希まれ有あり

衆生受持者

天下あまの諸人しよじん貴賤きけん老若男女らうじやくなんにょも一切いっせつ信心しんじんの修行者しゆぎやうしやと

してこの此法このしゆほうを受持うけもちつ者ものはひとり

皆與願満足

信者しんしやの輩たぐひ皆みな共とも願ねがふ願ねがふ人ひと也なり満足まんじつなるべしとて人ひと取謂とれい信しん  
のまは徳とくありとて人ひと取謂とれい然ぜんなりとて人ひと取謂とれい文化ぶんかの頃ころ大おほ  
坂さかろが町まち辺へに某あつとて人ひと取謂とれい塩物しんぶつ回屋わいゑの右みぎに人ひと取謂とれい撰せん北きた浦うら  
江村えむらの聖天尊せいてんそんへ利益りやく現然げんぜんなりとて人ひと取謂とれい故ゆゑ密ひそに尊信そんしんし奉ほうず  
変他へんたし起おこすも母はは且かつ雨あめ雪ゆき雷かみ風かぜの厭いとひなく家いへと出でる例れい  
も鶏けい明めいあゝ家いへも帰かへる世間よそ普通ふつう通と店明てんめいの頃ころ也なり此人このひと浦うら  
江えへ日ひ泰たいする多おほ事ことなりとて曾さへ以もつて知しる人ひと稀まれなりと



程ふ深く慎く徳くと尊信他念をりりりり一年の冬  
 對列より例のどく十二月中旬塩師と船積入津め  
 ころ知素来仲賞商人の此船の入津と且夕侍居と  
 処堂斗らんや船中嵐の巻く郷の眼と悉く喰ひ尽し  
 て例冬の賀魚を用ひが〜と〜同屋の主人の大魚  
 當惑か〜差當〜目出〜と祝〜遣〜知の大魚  
 小眼をなと以〜誰う賀魚を用ひ〜哉〜例冬は  
 得意方へ定例賣納め〜數も定〜小眼の  
 小魚を用ひ〜と兼今日や入船習や入津り〜待  
 ろ〜仲賞商人衆のつぎも途方小暮て誰う一人眼

のなるに郷を求免取〜賣捌んと思ふ者一個もなく是  
 小於〜同屋の主人も遠国より〜積登〜  
 知ら數千尾の郷と〜下ふ本國へ歸さんも如何と云ひ  
 大なり小あり仕切浪と勘定〜渡〜のハ又来る明年の  
 冬も〜変な〜色〜心配す〜賣捌〜  
 代呂物と困ひ貯〜置ん変も如何然ら〜と正〜船頭  
 美知の妻なり〜と〜遠国の妻の〜其子細と双方熟  
 終の上内渡〜小銀子と相渡〜船へ帰國ふ及〜  
 る然〜も數子の郷〜切責〜と捌〜  
 免や口ん角や口んと黑白是の〜心配〜と有〜一日







大小とれくふ應と郷の眼ふ後く入とを城突  
 くと賣例とら知お素来侍兼と後突なまは  
 例をよる價ひ高く珠外賣捌とよく莫太の利徳  
 と得とらとら入是等平日の信心の徳と因と加護あ  
 る知ふと意外の神徳なれば深く尊信し奉べ  
 ○是まま大坂天満市の側辺ふ于物の大商人と  
 市中ふ於て二と鏡ふ江戸積問屋の有らる其横町  
 とらふ以前ハ相應の身がなる人の夫婦零落と  
 當時とらふ裏店住居ふて人の小伎いまの半紙燈文  
 なると認め日と送らる又妻の人の古着衣服の洗ひ

濯ぎ縫釘と以てマと夫婦細くと煙と立みとら  
 素来夫婦とも心直く厚朴と大融寺境内の  
 尊天宮と朝夕崇信し奉る夏他ふ超りなまは  
 つつとやより彼大問屋の番頭某の心易く素と衣服  
 の仕立肌着下帯などの洗濯と後とふまりとら深  
 馴深視とく文のり夜今と閑暇あまは必らたきと  
 まで酒者ほど取寄縫活取とて交り身と知らる夜  
 まりと四らふら雑活の上僕も以前の身分か  
 夏はながかきも責と何たりとも一の家業と  
 取附と貴家の市至人も以前の聊の暮と



つりつり江戸表へ何角商品と積下り度ふ過分の  
利徳と得く追ふ都合よく遂ふに當時の如く大同  
屋となりふいと傳へ聞えり何品と積下りて即今  
の如く繁昌ふむびくや聞まや僕も以前に相應  
る商賣ありつりかども懸損懸外の上追く病氣  
續きやら不幸つぎあくる當時の如く零落ふむびり  
伏乞以前ふ復る支のかわりにも先祖への申譯おは先  
てい繁昌なりし時の十歩一ぐみの商賣ふ復り生涯と  
終りて身の上とお明りて真実謝すむむびり  
時彼番頭の他の支へ言ひ免角ふ人の何支と為るも

是なりくと觸をひびりて教へりて其  
障りしと見ゆ扱へ人々耳ふ似る品を江戸へ積  
下りて當時の如く大商人ふ音雲らるるのあんと  
と心得く可哉吾も此品と買集め積下ると思ひ  
夫婦色々と勘辨の上人々耳ふ似る品と奈何に  
うののめんと或博識家へ問はば木耳をさへ  
と教へられ自今勿論書くる者の衣服まじ質代は  
まじふ木耳と三番り斗り買求む江戸へ早速積  
下りてあま婦よりふ利運の時節當来や平日  
他念なく信ぶ奉らぬの天尊の愛憐加護よと



あや折節江戸表木耳拂底の時とて過分の商利  
徳金ふ成りて是と商賣の根元とて其後江戸拂底の  
品と相合勢積下り度と都合よく大分の利徳とわり  
日と追つて商賣繁昌家門長又よほび當時天満四  
み於て何某と称せり程の大商人と成りて惜  
い哉其家名と委しく聞かざるの残念なり今以其家  
相変らば天尊と崇信く賣先得意ありとより買元  
其外内外出入家内支婦子孫并手代丁見婢僕日  
雇仲仕ふ至り迄も和合と主とす毛も腹立怒ると  
いふまじく唯慈悲と意と家業増く繁昌目ふ及ぶと

又此話素番頭が兎角ふ人の盛衰の肩おりのつと  
指ふく齋と教へる指の無珠よつとつと人の耳に似  
るの品は本耳かると思ひ遠いが却て其人の幸ひとあり  
しつとつと実小間遠が真実と成りかゝりどく利運高  
福と得るとつと偏よ正直淳朴とて尊天と崇信す  
るふ他念なく主一と通とと専ら和合慈悲愛憐の  
心深げゆへ天尊の加護ありて人処明白現然と

我行順世法

我日く行ふ処の世間の法ふりぬが



世示希有事

世間ふ希れらるゝ処ら度と示

我能隨其願

我よく其信者の願ふ処ら望ふ隨ひ

右求名遷官

名と求め高位高官ふ昇て迂らんと願ふ所のやが  
我よく其願ひふ隨ひ求め先人とせ

大聖天靈驗經和訓圖會卷上終  
歡喜天



